

平成28年度「大阪市英語力調査」（「英検IBA」）における難波中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画^{*}に基づき、英語イノベーション事業^{*}の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

1 目 的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

3年生 58人

平成28年11月2日（水）実施

※本校では

2年生 54人

学年	英検IBAの種類	英検（目安）	テスト内容		満点スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テストC	英検準2～5級レベル	35題	30題	1100
2年	テストD	英検3～5級レベル	35題	30題	1000
1年	テストE	英検4級・5級レベル	35題	25題	800点

3 内 容

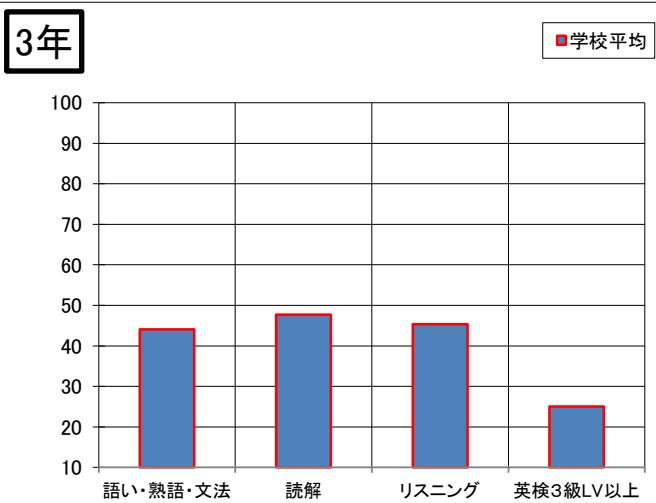
*大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

【様式3ーB】 平成28年度「大阪市英語力調査」(「英検IBA」) 結果の概要と今後の取組 難波中学校

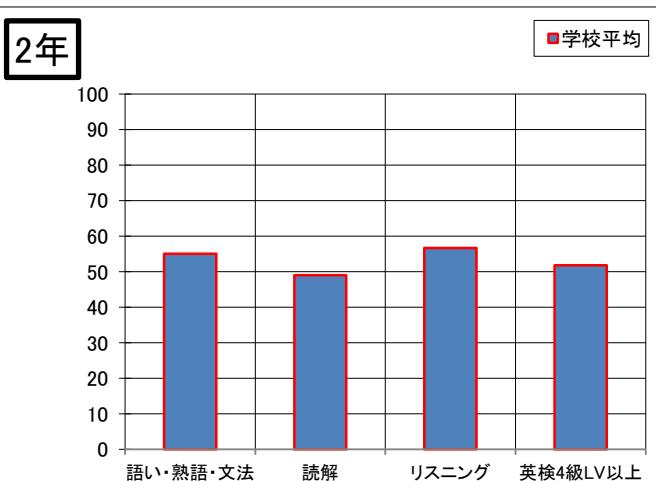
3年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級LV以上
学校平均	44.1	47.7	45.3	25

「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率



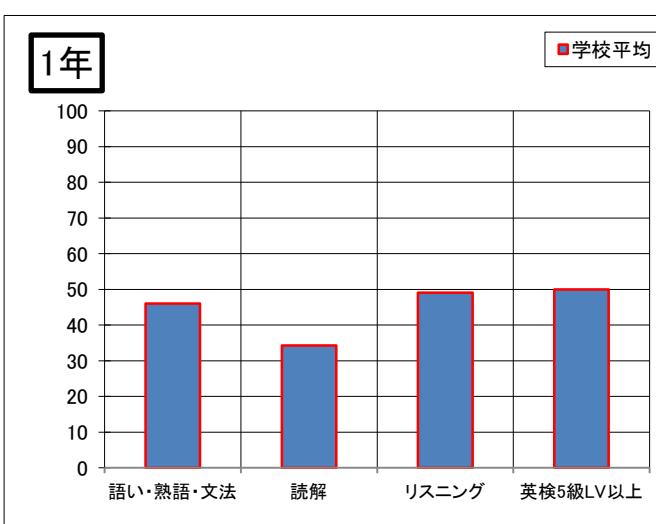
2年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級LV以上
学校平均	55.1	49	56.7	51.8

「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率



1年	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級LV以上
学校平均	46	34.3	49.1	50

「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率



結果の概要と今後の取組について

※各学年において実施した調査は、それぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

3年

英検(目安)準2～5級:スコア 0～1100点

＜結果の概要＞

語彙、熟語、文法と読解においては大阪市平均を約10%、リスニングにおいても6%近くを下回る数値である。

＜今後の取組＞

英語の基本となる語彙力、文法理解が低い上に3年生の文法事項が増え、文法理解が定着していない現状をふまえ、語彙力向上のための継続的な単語テストに加え、1・2年時の文法を確認しながら進める授業展開をする。

2年

英検(目安)3～5級:スコア 0～1000点

＜結果の概要＞

分野別では、リスニングにおいては市平均の9割程度、語い・熟語・文法、読解においては8割程度の正答率にとどまった。

＜今後の取組＞

英語の基礎基本である語いや文法に関しては、ドリル練習や単語テストを継続するだけでなく、言語活動を通して定着をはかる必要がある。また、その語い力・文法力を生かし、読解につなげていくような授業展開を進める。

1年

英検(目安)4・5級:スコア 0～800点

＜結果の概要＞

正答率が3分野とも50%を下回っている。特に読解については大きく下回っている。大阪市平均と比較すると、どの分野とも10%以上の差がある。語彙や読解については15%を超える差がある。

＜今後の取組＞

必修の語句・熟語の習得のための取り組みを強化していく。語彙力の育成と同時に、小文から長文を継続的に読み、読解に関する問題に答える力をつけていく。リスニングについては、多様な形式の問題に取り組み力を育む。